

会議等結果報告書			
会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	237
		決裁期日	平成29年11月30日
名称	第3回上富良野町協働のまちづくり推進委員会		
日時	平成29年11月8日（水） 午後6時28分～午後8時40分		
場所	役場3階 第2会議室		
出席者	協働のまちづくり推進委員13（別紙名簿のとおり） 事務局：町民生活課 鈴木課長、自治推進班 野寺主幹、船引主査 企画商工観光課企画制作班 浦島主査 合計17名		

[進行：事務局（町民生活課長）]

### ◎会長あいさつ

ご多忙のところお集まりいただきお礼申し上げます。前回は上富良野町自治基本条例について学び、今回は第6次総合計画における町民アンケート等の自治基本条例に関する結果も見て条例の見直しを実施する。このほかにも、総合計画見直しとして行われたフォーカスグループインタビューに協働のまちづくり推進委員会として北副会長が出席し、この結果についても説明される。委員の皆様からのご意見をいただきたい。

[進行：稲毛会長]

### 1 議題

#### ① 自治基本条例の見直しについて

##### ・第6次総合計画 フォーカスグループインタビューについて

企画商工観光課浦島主査よりインタビュー(資料0)について説明。

総合計画については、2月までに基本構想を練り、4月にパブリックコメントにより住民から意見を募集するため、その前段階としてフォーカスグループインタビューや町民アンケートを実施。アンケートは2,500名に送付し、そのうち約900名(36%)から回答を得た。このほかにも、町職員、中学生・16～18歳の方にもアンケートを実施、9月にコンサルが集計しての結果を公開した。詳細については別紙のとおり。

菊池(哲)委員：鉄道が廃止にならないかが心配。JRは廃止したいようだが、外国人が多く訪れているので対応が課題か(言語や交通事故の予防など)。住民が減少していることでもあるので、旅行者の移住定住に向けての取り組みが課題になるのでは

浦島主査：JRについては、報道では北海道内で路線廃止の話がでていますが、富良野地区については観光客が来ている路線であるため廃止になる可能性が低いのではと話がでて

いる。旭川市から富良野市までの自治体がアンケートなどを実施し、存続するために調整を行っている。外国人旅行者などについては、標識を多言語対応できるように少しずつ取り組んでいる。

・第6次総合計画 アンケート調査結果について 企画商工観光課浦島主査より説明。

アンケート結果については広報かみふらの12月10日号にて掲載予定。

菊池(敏)委員：アンケート結果について町がどこまで反映するのかが問題。観光振興計画を策定したときは、5年間の計画期間のうちの予算の総額が決まっていなかった。住民としては上限がなければいくらかでも予算が付くのではと思う。

また、計画を立てていても達成したのかどうかかわからない部分もある。

浦島主査：予算の詳細については総合計画でなく、実施計画で決定しているものであるため難しい部分ではあるが検討したい。

計画の達成したかどうかについては毎年、計画目標に対して評価は実施している。

松下委員：住む年数が上がるにつれて町についての満足感も上がるが、子どもについては住みたい町かという結果は逆転して低くなっていることについてはどうか。

浦島主査：子どもたちは「まちは好き」という気持ちはあるが、働く場所がないという意味での結果だと思われる。

田中委員：昔から町内で働けるなら住み続けたいとの意見はあるが、現在でも変わっていない。子どもも進学や就職で町外へ出てしまう。

持安委員：第5次計画から見て、企業誘致などが実施されていないし、町の活性化もない。

今までを踏まえて分析し、計画はどうだった結果が知りたい。また、町政は町民、議会、役場の三者からなるものなので、町議員にもアンケートをすると良かったのでは。

浦島主査：検証については現在実施中。取り組みについて達成度などを数値化している。

・自治基本条例の見直しについて 事務局（野寺主幹）より資料1～4について説明。

八雲町、名寄市、白老町の自治基本条例の見直し事例を例に、上富良野町での見直しにおける留意点を委員と確認。見直しする際には、役場など運用する側に問題があるのか、若しくは条例に問題があるのかに着目して見直しを行うものとする。

見直し方法については、2つのグループに分けて、条文も半分に分けてそれぞれ検討するか、全体で意見を出し合い見直しするか委員より意見をいただくものとする。

今年度で現在の委員の任期が終わるため、条例の見直しはH30年度中まで時間があるが、委員が変われば1から条例を勉強する必要があり時間がかかるため、今年度中に見直しをめざすものとする。見直しには後2～3回会議を実施する必要があるため、日程も含めて会長、副会長、事務局で話し合い検討する。

菊池(敏)委員：条例の文言については「～ように努めます」「～を行います」とあり、必ず実施しなければならないのか、努力目標でいいのか、どのようなニュアンスでいいのか？

野寺主幹：条文をすべて「行います」では実際にすべてをできるのか？という問題もあるので、状況に応じて検討したい。

田中委員：すべての人が責任を持って活動するためのものなので、しっかり言葉にする必要があると思う。

渡辺委員：条例にはいい内容が多いが、知らない人も多い。条例をそのまま読むのは大変なので、子どもにもわかるような文にしてはどうか。自助・公助・共助もいい制度なの

でイラストにするなどして紹介してはどうか。

岡和田委員：広報紙などで毎月少しずつ紹介してもらえるとわかりやすいのでは。

鈴木課長：自治基本条例について知らない方も多いが、この条例に基づいて町民の皆さんがいろいろ係わっていることを後押しするもの。今回の見直しは、条例について議論することで、町民でもある委員のみなさんにまずは条例について深く知ってもらうという意味もある。住民周知の第一歩でもある。

## ② 平成29年度 協働のまちづくり推進補助金の活用状況について

事務局（野寺主幹）より説明。

補助金の執行状況については別紙のとおり。補助金の残りはあとわずかになっている。

来年度の継続協議については予算編成に向けて要望を聞き取りする予定。

## 2 その他

札幌上富良野会の平成29年札幌上富良野会総会・ふるさと交流会が開催され、約100名が参加したことについて報告。

### 次回会議について

次回会議については、会長、副会長と協議。1月を予定。

【会議録は決裁終了後、行政ホームページ、町政情報提供コーナーに公開】